

2026年3月期 第1四半期決算説明会(WEB会議) Q&A サマリー

Q:半導体の需要動向について

A:生成AI関連で堅調に推移しています。しかし、自動車や産業用機器向けの半導体関連投資は依然と調整局面となっております。上期は、国内半導体装置メーカーの受注減速に伴い一定の影響はありと見ておりますが、下期は半導体の設備投資計画を踏まえると、装置メーカーからの受注は回復基調で推移すると見込んでおります。

Q:工場稼働率について

A:4Qと比較し変更はございません。下期は、需要回復に合わせ稼働率が上がっていくと見込んでおります。

Q:期初と1Q実績とのギャップについて

A:自動機械事業は、計画的に進捗し、収益安定化に向けサービスビジネスにて成果を出すことができました。機器事業については想定通りであり、国内において半導体市場向けの機器需要が減少しましたが、海外は堅調に推移しております。

Q:米国関税の影響について

A:米国向けの輸出は限定的であり、影響は軽微だと考えております。ただ、間接的な影響については継続して注視してまいります。半導体における100%関税の影響については、具体的な情報の開示がないため差し替えさせていただきます。

Q:産業機械の受注見通しについて

A:リチウムイオン電池において世界的なEV需要の減速感は強く、また、はんだ印刷検査機については、アセアンでの受注は好調ですが、中国は減速しております。

Q:北米工場について

A:業績拡大が順調に進んでおりますが、今後の米国での投資状況によっては、さらなる活用について柔軟に検討してまいります。

以上